

## 令和2年度第2回(第36期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和2年11月5日(金) 午前10時～午前11時30分
- 2 開催場所 引佐多目的研修センター1階 農事研修室
- 3 出席状況
- |      |  |
|------|--|
| 委員   | 伊藤豪委員、晝馬るみ委員、河合亮子委員、<br>高木一徳委員、中村朋子委員、松本孝久委員、<br>屋名池倫子委員、島埜内恵委員 (Zoom参加) |
| 事務局  | 中村文化振興担当部長、<br>平田生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長、<br>遠部指導主事、井ノ口指導主事               |
| 欠席委員 | 近藤潤子委員、鈴木一夫委員  |
- 4 傍聴者 1人(一般:0人、記者:1人)
- 5 議事内容
- 1 浜松市と大学との連携事業について  
意見交換「講座を視察してみて」
  - 2 第1回社会教育委員で出された主な意見への対応と今後の課題  
について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ  
遠部佳代子、今井千晶
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無
- 8 会議記録

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 開会   |
| 2 | 講座視察 浜松市と大学との連携事業<br>常葉大学 木村佐枝子准教授 ゼミ学生「特殊詐欺撃退すごろく」  |
| 3 | 議事<br>(1) 浜松市と大学との連携事業について 意見交換「講座を視察してみて」<br>(伊藤豪委員長)<br>ただ今ご覧いただいた講座ついて、委員の皆様の忌憚のないご感想やご意見を伺 |

いたい。

(屋名池倫子委員)

資料の字が小さくて読むことができない参加者に対し、学生が読んであげる等、臨機応変に対応することができていた。普段あまり接することがない高齢者と接し、臨機応変な対応を学ぶことができるいい機会であり、素晴らしい学びの場であると感じた。盛り上がっているグループとそうでないグループがあったが、盛り上がっているグループは、情報を出し合い、共有ができていた。

(事務局)

学生が学んだことを実践し、受講者の生の声を聴くことができるところに、この大学との連携事業の意味がある。学生は自分たちが思った通りに実践できないこともあるが、学生の学習成果実践の場にできている。コロナ禍において、大学側が対策を十分にしてくれたからこそ、本年度も講座開催が実現できた。

(伊藤豪委員長)

学生たちにとって、自分たちの企画したものがその年代に合っているのかを確かめる、いいチャンスである。若い世代と違う世代が会話を持つ機会があまりない中、講座の中で世代が違う人達が会話をする良い機会である。高齢者にとっても、若い世代と話すことができる・理解し合えるチャンスである。世代間の理解を深め合うのにとっても良い。

(晝馬るみ副委員長)

コロナ禍にあって、浜松市と大学との連携事業が10年目を迎えられたのは、市や大学、様々な方のご尽力があったからこそである。大学の授業もリモートになる中で、こうして社会とのつながりを持つ場を提供できていることが素晴らしい。リモートでは、社会とのつながりを感じにくい。人との関わりを通しての体験は、リモートでは決して味わうことができない学びがたくさんある。コロナ禍でどうやったら安心・安全に講座を開催できるのかを考えながら取り組んでくれている大学や生涯学習施設等に感謝したい。

(島埜内恵委員)

浜松学院大学は、昨年度までこの事業において多くの講座を開催していたが、本年度は一人の教授の参加に留まった。子供対象の講座がほとんどであり、講座運営においての対策は大変難しいところがあった。この講座開催を、卒業研究に活かすことは意義のあることである。来年度以降は、もっと積極的に参加できると良いと思う。

(河合亮子委員)

学生が臨機応変に対応できていた。学生にとっても学びの場となり、高齢者にとってもすごく楽しい場になっていた。すごろくにも工夫があった。

(事務局)

すごろくを通して知らず知らずのうちに学べる工夫がされていた。細江警察署にアドバイスをもらい、学生が良く工夫していた。

(河合亮子委員)

他でも同じような内容の講座があるが、講師の話のみで学びが一方通行である。この講座は、すごろくを使って学生講師と受講者が楽しみながら双方向の学びになっていた。一方通行の学びより、双方向の学びの方が良いと感じる。

(中村朋子委員)

今回すごろく内にあったクイズの答え合わせまで視察できなかったが、どのように行われるのか、どのように学生が対応するのか興味がある。

(事務局)

前回、他施設で行った講座で視察したが、学生たちが被害者と詐欺グループ役になって劇を仕立て、楽しく答え合わせをしていた。

(中村朋子委員)

ぜひその場面も見たかった。流れが工夫されていて素晴らしい。今回視察した講座のように、流れを工夫して講座運営をしていくことが重要である。

(松本孝久委員)

ゲームやクイズを盛り込むことで、受講者の笑顔がたくさん見られ、とても生き生きしていた。受講者の意欲をうまく引き出していた。大学との連携事業で大学生が講師として活躍することは、教育実習と同様で、学生にとって一歩社会に出てみるいい機会である。AI が進化する時代であるが、最後は人間の力が必要だと、学生達が感じてくれると嬉しい。

浜松市と大学との連携事業が 10 年続いていることに驚いている。本物は、こうして続くのだと思う。しかし、市民の認知度はまだ低いと感じる。こんなにたくさんの講座が開催されていたことを、自分も知らなかった。もっと多くの市民に知ってもらえると良い。口コミの力は大きいので、口コミによってもっとこの事業の認知度が上がると良い。

(高木一徳委員)

弱者をどう守るのかについて、大学生が取り組んでくれてありがたい。講座に参加して終わりではなく、家に帰ってから活かしたり、使えたりする何かを持ち帰られるのが良い。今回の講座のように、それぞれの年代に合わせ、時代や社会情勢に合った講座をどんどん企画・工夫していってもらいたい。講座の PR をもっと工夫して、この事業がさらに広がっていくと良いと思う。

(2) 第 1 回社会教育委員で出された主な意見への対応と今後の課題について

■事務局から、資料 2 に基づき講座や講師の情報共有及び多種多様な講座企画に向けて説明

■事務局から、資料 3 に基づき SNS での情報発信について説明

(伊藤豪委員長)

学校には、学校独自の講師データがあるが、更新されていないようである。学校独自のデータだけでなく、地域や協働センターからの情報は貴重である。今後、有効に機能していくと良い。

(事務局)

以前の講師登録の様式では、学校からの講師依頼の際には、講師に一度連絡をして確認を取る必要があった。新様式では、学校での活動が可能かどうかの情報を加えた。講師には、協働センター・ふれあいセンターでの活躍に留まらず、多くの場所で活躍してもらいたい。

(晝馬るみ副委員長)

第1回社会教育委員会での意見に対し、すぐに実践していただき感謝している。生涯学習講師登録名簿が検索しやすいと有効に活用していけると考えるが、データベース化し、検索できる機能を作る計画はあるか。

(事務局)

講座内容、講師可能な曜日、講師可能な地域等、様々な条件で検索できるように制作している。個人情報になるので、ホームページ等には掲載しないが、生涯学習施設や当課で検索し、必要に応じて講師の紹介ができるようになる。

(伊藤豪委員長)

学校のニーズと、実際に来校した講師の講座内容がミスマッチの時もあり、講師選定は難しい。今回の生涯学習講師登録名簿の整理はとてもありがたい。この仕組みを利用・活用していくためにも、もっとこの名簿についてPRをしてほしい。

(河合亮子委員)

南区に続き、北区もFacebookの開設をしたとのことであるが、他の区においてはどうか。

(事務局)

他の区はまだできていない。Facebookは生涯学習の情報に留まらず、区全体の情報を発信している。現在、生涯学習の情報は、開催される地域でしか情報発信されていないので、今後市のホームページで検索しやすいようにしたり、市全体の生涯学習情報が発信したりできるように調整を進めていく。

(晝馬るみ副委員長)

ホームページから欲しい情報を探そうとすると、階層が深いためその情報にたどり着くことが難しい。ホームページも検索しやすくなると良い。

(事務局)

講座の申込みは、センターに直接出向くか、電話をしなければいけなかったが、中区ではチラシにQRコードを付け、自宅に居ながら申し込みができるように準備を進めている。

(晝馬るみ副委員長)

オンラインでの申込みについては、ずっと島埜内先生が提案してくれていたが、島埜内先生いかがか。

(島埜内恵委員)

QRコードを利用した講座申込が始まることは素晴らしい。中区だけに留まらず、各区にも浸透していくと良い。

地方自治体の情報発信がFacebookに行きがちなのはどうか。また南区公式

Facebook「みなみる」に記事を掲載するまでの手順はどうなっているのか。

(事務局)

文字の量と写真を考え、広聴広報課ではFacebookを推奨している。

「みなみる」は、南区役所の中で各課が交代で記事を作成し、区振興課が記事を集約して投稿している。「きたいーら」も同様である。

SNSの様態も変化していくので、まずはFacebookを運用していく中で、今後変わっていく可能性もある。

## 6 連絡事項

### ■事務局から以下の内容について連絡

- ・第62回全国社会教育研究大会新潟大会について
- ・(一社)全国社会教育委員連合会会報について
- ・次回開催予定

浜松市と大学の連携事業 成果報告会 令和3年2月末  
第3回社会教育委員会 令和3年3月頃

## 7 閉会